

## 日立永久磁石 MRI 装置、世界に 3,000 台出荷

2003 年 12 月 11 日

各 位

株式会社 日立メディコ  
執行役社長 猪俣 博

株式会社日立メディコ(本社所在地:東京都千代田区、執行役社長:猪俣 博、資本金:138 億 8 千 4 百万円)は、1987 年以來、世界 46 カ国に永久磁石方式 MRI 装置を出荷してきましたが、本年 11 月に出荷台数 3,000 台を達成しました。

MRI 装置とは、磁石から発生する磁場で水素原子の情報を得ることにより体内の様子を画像化する装置です。低侵襲での撮影が可能のため、画像診断の世界で広く用いられています。MRI 装置では、永久磁石方式と超電導方式の2つが主流となっており、当社は特に前者の方式を採用した MRI 装置を中心に扱っています。

1987 年に現在の「オープン MRI」のきっかけとなる永久磁石方式 MRI 装置「MRP-20」を開発しました。1996 年には「オープン MRI」を実現した装置「AIRIS(エアリス)」を発売し、それまでにない独自のデザインは世界各国で高く評価され、通商産業大臣賞をはじめ、さまざまな賞を受賞しました。その後「オープン MRI」は「AIRIS」から「AIRISII」、「AIRIS mate」、「AIRISII comfort」と進化を続け、2002 年には開口部が 320 度の「シングルピラー・ガントリー(\*1)」を実現した「APERTO」を発売するに至りました。「APERTO」は今までにない広い開口部を実現しただけでなく、磁場強度の向上や高速撮像などの機能も向上し、好評を頂いています。

これら市場のニーズに合った装置をコンスタントに投入してきた結果、当社の国内における MRI 装置の 2002 年度の装置納入台数はトップの 27%を占めており、さらにオープン MRI のセグメントにおいてはシェア 80%を超えています(\*2)。

近年では開口部が広い特性を活かし、インターベンショナル MRI(\*3)や術中 MRI(\*4)など、新しい MRI の可能性を産学共同で研究しており、今後は治療装置や超音波装置・X 線装置などの画像診断機器とのコラボレーションを活用した展開を図ります。

\* 1 シングルピラー・ガントリー:支柱を1本にしてオープン性を高めた MRI 用磁石。

\* 2 月刊新医療統計(2002 年度)より MRI 納入台数 :1 位 日立メディコ 27%、2 位 22%、3 位 18%

オープン MRI 納入台数 :1 位 日立メディコ 83%、2 位 13%、3 位 2%

\* 3 インターベンショナル MRI: MRI をモニタリング装置として用いながら患部に針を挿入し、薬物注入など、治療に応用する。また、治療効果の判定にも MRI 画像を用いる

\* 4 術中 MRI:手術室に MRI 装置を設置し、手術中に MRI 画像を得ることで、より正確な手術を行う

今回発表の 3,000 台出荷を記念して、永久磁石 MRI 装置「AIRIS-II comfort」において、(1)装置本体のデザインラッピング、(2)2 つのソフトと QD コイル(\*5)、(3)初年度保守特別料金の 3 つの中から 1 つの特典を選んでいただける「3 セレクションキャンペーン」を実施しています(2004 年 3 月末まで)。

\* 5 QD コイル:2つの受信コイルを同時に使用して高画質を得る技術

【このニュースのお問い合わせ】

株式会社 日立メディコ 広報担当:西田、杉原

〒 101-0047 東京都千代田区内神田一丁目 1 番 14 号  
TEL 03-3291-6391